

令和4年度 第2号



武蔵野市立武蔵野プレイス (武蔵野市)

平成 23 年 7 月 9 日に開館した武蔵境南口すぐの武蔵野プレイスは、これまでの公共施設の類型を超えて、複数の機能を積極的に融合させた施設です。人々の交流が自然に生み出される質の高い「場」を提供し続けることによって、生活、文化、芸術、自然、歴史、まちづくり、ボランティア活動、市民活動、生涯学習、福祉、教育といった横断的な活動や交流のネットワークの活性化を促しています。開館以来、多様な人々がそれぞれの活動を通して時間を共有する快適な空間(場)は、地域社会の魅力を高めることに役立っています。

目次
巻頭言
変化への対応と変わらぬもの... (1)
北多摩東地区保護司会「新春のつどい」開催... (2)
多摩連情報... (2)
令和4年度第II期地域別定例研修... (3)
第7ブロック保護司組織運営連絡協議会... (3)
分区トピックス... (4)
東京更生保護事業関係者顕彰式典... (6)
更生保護女性会活動報告... (6)
桐友会だより「窓」... (7)
四市の神社... (7)
新任保護司紹介... (8)
編集後記... (8)

武蔵野警察署長の菅野と申します。北多摩東地区保護司会の皆様には、平素から、崇高な使命感の下、非行少年等の立ち直りのためにご尽力いただき、管内治安維持を担う責任者として、敬意を表するとともに、感謝申し上げます。さて、昨今における少年犯罪の傾向をみますと、特殊詐欺や大麻取締法違反の検挙が増加しており、深刻な社会問題となっております。これらの犯罪に共通しているのは、SNS等の普及により、より手軽に、そして、秘匿性を持って行われているということです。時代の変化を感じますが、もちろん、私達もこれに対応しうる捜査手法を身につけることが必須となっております。司法の世界も同様、ここ数年は、まさに「変革の時代」を迎えています。取調への録音・録画の義務化をはじめとする新たな制度の導、これら大きな変化への対応を迫られています。これは、保護司の皆様にとっても同じだと思います。今の時代に即した手法で、非行少年等を立ち直らせるといふ保護司の皆様のお熱い思いは変わらないと思います。私達としましても、一人でも多くの非行少年等が立ち直れるよう、時には新しい方法で、時には代々受け継がれている方法で、相互に連携できればと考えております。結びに、北多摩東地区保護司会のごますますのご隆盛と保護司の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



変化への対応と変わらぬもの

武蔵野警察署長

菅野 修司

入は、現場で培ってきた刑事達の間識を一人から見直さなければなら

## 北多摩東地区保護司会 「新春のつどい」開催



令和5年1月20日に、武蔵野スイングビル「レインボーサロン」において、北多摩東地区保護司会「新春のつどい」が開催されました。58名の会員出席のもと、小山茂会長の開会挨拶に続き、保護観察所立川支部藤井淑子支部長の挨拶がありました。

続いて、令和4年度表彰を受けられた会員に、北多摩東地区保護司会より記念品が贈られました。

法務大臣表彰を受けられた武蔵野分区山崎裕子保護司に藤井支部長より記念品が贈呈され、関東地方保護司連盟会長表彰以上を受けられた9名の表彰保護司に対し、小山会長より記念品が贈られました。

休憩をはさみ、「回復とは……八王子ダルクの活動」と題し、八王子ダルク代表理事の加藤隆様の講演がありました。

2011年に、民間リハビリ施設東京ダルク八王子寮として開設し、ダルクでプログラムを受けて回復した薬物依存者が、支援者とともに立ち上げてきた歴史があり、全国では66の運営母体が96施設を運営しています。

また、入所経験者からも、薬物依存から回復した経験等、薬物依存について具体的にお話しいただきました。

お二人は、薬物依存からダルクの様々なプログラムを受け、立ち直りました。

薬物依存者の特徴は、薬物そのものではなく孤立が依存に走らせます。依存症支援に必要なものは、安心して話せる場所や、中立的な機関での出会いなど、依存者

を孤立させないためのネットワークの構築が必要であります。ダルクは、同じ仲間とともに安心して生活できる場所でコミュニケーションにより、依存志向から健康志向への転換を図ります。ダルクを運営する施設のスタッフは、過去に薬物依存だった者が多く、この活かした経験が回復を目指す依存者に対する支援者となっています。

保護司として対象者に関わる場合には、まずは同じ目線に立ち安心して何でも話せる関係を築くことが最も必要とのことでした。



### 「八王子ダルクの活動より」

- \* やめられない・とまらない・使いたいが、安心して話せる場所
  - \* 薬物の最大の敵は薬物ではなく、孤立である
  - \* 薬物からの回復に必要なものは、つながりである。
- (総務部長 小川 和男)

### 多摩連情報

#### 研修部会

令和5年2月8日(水)開催

#### 多摩連保護司全体研修

令和5年2月27日(月)開催

会場・パルテノン多摩

#### 地域活動部会

令和5年3月8日(水)開催予定

#### 広報部会

令和5年3月13日(月)開催予定

#### 総務部会

令和5年3月24日(金)開催予定

#### 東京保護司代表者協議会

及び東保連理事会

令和5年3月16日(木)開催予定

#### 多摩連常任理事会

令和5年3月29日(水)開催予定

## 令和四年度第Ⅱ期地域別定例研修 研修テーマ『性犯罪者処遇について』

第Ⅱ期地域別定例研修が10月13日(木)小金井市民会館(萌え木ホール)で、10月20日(木)武蔵野スイングホールで開催されました。

北多摩東地区担当の林田実代主任官の講義では「性犯罪再犯防止プログラム」導入の経緯から、再



犯防止プログラムを実施して検証した結果、再犯者の減少効果の説明があり、本年度から新たに「性犯罪再犯防止プログラム」が実施されることとなりました。

講義の後の質疑応答で、参加保護司の中から今までの性犯罪対象者の体験談等を数件あげていただき、数年前はこの「性犯罪再犯防止プログラム」がなく、同じ犯罪を犯してしまい家族や家庭が崩壊してしまったケース等の話を聞かせていただきました。

今後私たち保護司は再犯防止計画とセルフチェックシートを用いて保護観察対象者の再犯をなくして社会復帰できるように協力してまいりたいと思われました。

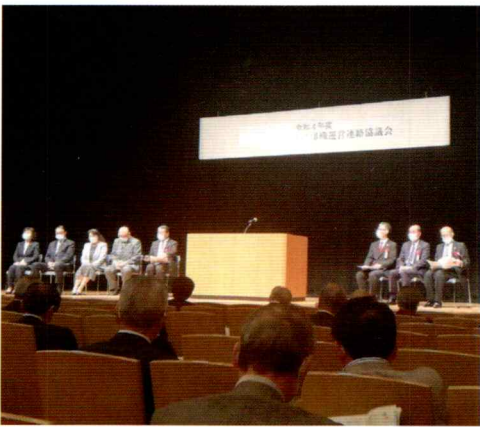
(三鷹分区 森屋 正)

## 第7ブロック保護司組織運営連絡協議会

開催日 令和4年10月27日

今年度の協議会は、北多摩北地区保護司会が当番として、10月27日小平市のルネ小平にて開催され、当地区からは21名の協議員が参加し、活発な協議意見の発表が行われました。

今年度の協議議題は、「①保護司適任者の確保」「②更生保護サポートセンターの現状と課題」「③保護司の考えるデジタル化・省力化」であり、当保護司会では、協議議題の①を主体に小金井分区の千本木分区長が意見発表を行いました。各地区とも保護司の高齢化が進



んでおり、保護司候補者検討会議等を設置し、適任者の確保を行っている地区もありませんが、なかなか確保につながらない現状もあるようです。

当地区では、保護司適任者の確保については、各行政機関や関係団体に適任者の推薦の積極的な働きかけを行い、現職の保護司も適任者の確保に向けた努力をします。また、勤労若年保護司を確保するにあたり、定例会や研修会の夜間開催を増やし、勤務に影響を及ぼさないよう配慮することとされています。

最後に小山会長より、次年度の当番地区は北多摩東地区保護司会とし、10月26日「武蔵野スイングホール」での開催とする発表がありました。

(総務部長 小川 和男)

ぶんく トピックス

三鷹分区

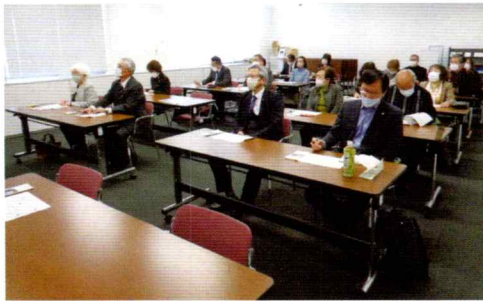


令和4年度三鷹分区日帰り研修

12月7日、東京保護観察所立川支部にて「少年非行の現状と法務少年支援センターの役割」のテーマで、東京西少年鑑別所地域非行防止調整官竹田収先生のお話を伺いました。

少年非行は少子化を上回る減少率が続いており、ずっと右肩上がりだった詐欺・性非行関連もここ数年は横ばいになっていること、男子は性犯罪、女子はく犯が多いとのことでした。

少年鑑別所では、家裁での調査・審判を経て入所してきた少年を、面接・心理検査・行動観察など



によりさらに詳しく調査して、それぞれの少年の健全な育成のための支援プログラムが組まれます。その内容は、挨拶・整理整頓・言葉遣い等の生活態度に関する助言や指導、お花見や七夕等の情操を高める教育、学習支援、就労支援など多岐にわたります。竹田先生の「鑑別所での生活の中で『このままでいいのか、どうすればいいのか...』』という自問が出てくるようになれば成功です。」とのお話が印象に残りました。

(大野 寿美子)

武蔵野分区



令和4年度武蔵野分区日帰り研修

12月9日に八王子市にある厚生保護施設「紫翠苑」を見学してきました。紫翠苑は平成29年から全面改築工事に関する検討が開始され令和3年8月に建替えのための解体工事を開始し、令和4年3月に竣工いたしました。当日は三鷹駅北口から大型バスで小山茂会長をはじめ宮下みさ子分区長が参加して、桐友会からは北多摩東桐友会山代法道会長他2名のご参加をいただき、保護司17名、事務局1名の総勢21名で出発いたしました。



「紫翠苑」に到着し、2階にある集会室で真田安浩施設長から「紫翠苑」の成り立ちや建て替え前の施設の状況、そしてこれからの紫翠苑の運営などについてお話を伺いました。紫翠苑は家族的経営により

定員8名でスタートした「八南会」が、川崎市の篤志家の支援を受けて旧施設を建てましたが、地元住民の反対で10年は使用できない状態であったとのこと。反対理由は「迷惑施設」は容認できないということでしたが、女子少年専用保護施設にすることでようやく受け入れられました。当時の入所者の紫翠苑での生活をスライドで説明を聞き、今後は更生施設で働く職員の確保も重要な課題であるということをお伺いしました。その後、施設内を一通り見学して研修を終え、バスで移動し「うかい竹亭」で懇親会を行い、武蔵野分区保護司会の有意義な日帰り研修を行うことができました。

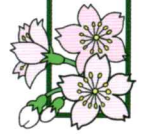
(岩井 昭治)



小金井分区

小金井分区管内研修会

従来、年末に行われていた管内研修は、コロナウイルス感染拡大防止の観点より、12月13日に、レストラン「葦」において、講演による研修会に変更し、保護司22名、桐友会4名の参加により懇親会と併せ開催しました。



研修講師は、元北多摩東地区保護司会担当保護観察官の平田和英氏をお招きし「近年の保護観察について」と題しお話をいただきました。

内容は「昭和58年に7,000人であった対象者が、令和3年に2,500人に減少している。当時は子供の比率が約7割で、また共犯が多かったからである。今の若年層は、当時から比べると、表面上は随分おとなしくなっている。一部猶予者の中には、表面的な反省すらしらない対象者が多く、顕著となってきている」とのことでした。最後に「長年保護司活動にご尽力いただいている皆様や、そのご家族、関係団体のご協力に対し、お礼を申し上げます。」と結ばれました。

その後、懇親会に移行し、桐友会の方々を交え、自己紹介・近況報告等を行い、昔話に花を咲かせました。

(霜鳥 文恵)



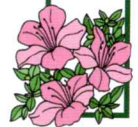
国分寺分区

更生保護施設 紫翠苑の見学

11月16日国分寺分区の日帰り研修では、令和4年3月建て替えをした八王子市にある紫翠苑を訪問した。

非行少年や保護者の観護を受けられない多数の少年を引き受ける施設の確保が急務であり、そのような社会の要請を背に、南多摩地区の保護司が法務省の許可を受けて、昭和32年に「八南会」が設立された。貴重な社会資源として全国各地より多くの非行少年が入所し、生活や就労等の自立指導が始まった。

その後、篤志家の資金提供で大きな施設にしたものの、職員体制の脆弱もあって新築後2年で業務停止となった。さらに地域住民の再開反対にも遭い、建物を使用できない事態は10年にも及んだ。昭和56年、地域住民によって施設業務の再開が認められ、名称を「紫翠苑」に変え、入所者を男子から女子に変更した。



現在では未成年だけでなく成人女子も受け入れるようになり、むしろ成人の方が多い。近年は薬物依存離脱指導も定着してきた。今後は高齢者の受け入れも進むと思われ、就労自立モデルだけではなく、福祉機関との協働も含めた対応を考えていくとのことである。

(水野 瑠美)



# 東京更生保護事業 関係者顕彰式典

令和4年度東京更生保護事業関係者顕彰式典では、北多摩東地区保護司会関係者34名がその功績を顕彰されました。

## 法務大臣表彰

山崎 祐子 (武蔵野)

## 法務大臣感謝状

更生保護女性会員

鈴木 汎子 (国分寺)

## 全国保護司連盟理事長表彰

松田 多恵子 (武蔵野)

三橋 優子 (三鷹)

## 日本更生保護女性連盟会長表彰

池谷 敏子 (国分寺)

## 関東地方更生保護委員会委員長表彰

飯村 雅洋 (武蔵野)

遠藤 百合子 (小金井)

小泉 利康 (国分寺)

高橋 榮治 (武蔵野)

林 博行 (国分寺)

藤尾 忠洋 (小金井)

## 関東地方更生保護委員会委員長感謝状

更生保護女性会員

片野 理代 (三鷹)

## 関東地方保護司連盟会長表彰

内藤 達也 (国分寺)

## 関東地方更生保護女性連盟会長表彰

大久保 良子 (武蔵野)

## 東京保護観察所長表彰

大羽 千世 (三鷹)

鎌田 広美 (三鷹)

須藤 倫子 (三鷹)

塚越 明夫 (三鷹)

仲摩 恵子 (武蔵野)

本多 勇 (国分寺)

山崎 豊 (三鷹)

## 東京保護観察所長感謝状

更生保護女性会員

井口 久美子 (武蔵野)

長谷部 豊子 (国分寺)

## 東京都保護司会連合会会長表彰

岩井 昭治 (武蔵野)

金子 千佳 (国分寺)

河野 律子 (小金井)

高麗 静男 (三鷹)

輿水 香 (国分寺)

首藤 毅彦 (国分寺)

田中 勉 (小金井)

中村 隆生 (国分寺)

山本 雄一 (小金井)

## 東京更生保護女性連盟会長表彰

坂本 喜久子 (国分寺)

清水 尚美 (小金井)

# 更生保護女性会 活動報告

北多摩東地区更生保護女性会

会長 高木 和子



コロナウイルス  
ス感染拡大が繰  
り返す状況にお  
いて、国は行動  
制限をしない方  
針を示した。一方で、公的機関が  
所管する施設等には制限があり、  
高齢者の感染リスクが大きいこと  
など、活動再開に慎重にならざる  
を得ませんでした。その状況で、  
今年度の更生保護女性会として

は、人数制限のない理事会と3年ぶりの新年会を実施することができました。各分区においては、保護司会と共催し、社明広報活動のパネル展、地区の盆踊り大会での啓発活動、毎年のひまわり畑の育成・迷路作りとコンサートを開催することができ、また週一回の学習支援も継続して行いました。今後、保護司会・桐友会・更生保護女性会三者合同の講演会の開催と、会員の方向けの親睦を兼ねた更生保護に関する勉強会の開催を予定しています。

更生保護女性会の存在を多くの人に知ってもらい、活動の理解者を得て、求められる様々な支援にこたえていけたらと考えております。



桐友会だより



会長  
山代 法道

●北多摩東桐友会

令和2年1月ころから、日本でも新型コロナウイルスの感染がはじまり、第1波から第7波と増減を繰り返し、令和5年の年明けは第8波の感染者が増加中です。このため令和3年の4月ころから、集会等に規制がかり、更生保護関係も全ての会合が中止又は延期となりました。

令和4年春、第7波のおちついたころ、規制が解除され、諸会合が復活し、北多摩東桐友会も6月に総会を開催することができました。

各分区分会では

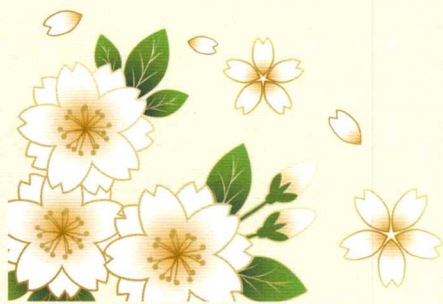
(小金井) 7月、保護司会分区分長を招待し懇親会を開催

(武蔵野) 12月、保護司会の研修、更生保護施設「紫翠苑」の見学に会員参加

(三鷹) 令和5年2月、保護

●東京桐友会

東京桐友会は令和4年度も、理事会、「会員の集い(総会)」は中止、「桐友会報」の発刊及び会員の慶弔の実施でした。



コラム「窓」

和太鼓とともに

武蔵野分区分 伊藤さつき

今、私は気の合う仲間と和太鼓を楽しんでいます。

きっかけは、我が子を通っていた小学校の先生から「学校に立派な和太鼓がいくつかあるのだけど使っていないんだよ、なんか活用できないかな」と聞いて自分が叩いてみたい!と思ってしまうところから始まります。

全く経験がないにもかかわらず、気持ちだけ満々でどうやったらできるか、と考えていたところ、先生の中に和太鼓を演奏できる方がお二人もいる、そのお二人が学生時代の先輩後輩だったとわかった時に、これはもう何かのご縁!今始めないでいつやるの!と勢いで校長先生、お二人の先生にお願いして、和太鼓チームが誕生しました。大人がチャレンジする姿、真剣に楽しむ姿を子ども



もたちに見せたいと思う大人が集まりました。

かれこれ10年以上が経ちます。地域のお祭りやイベントに呼んでいただき演奏する機会もできてきました。演奏はまだまだ上手いきませんが、聞いてくれた方が「いいね、和太鼓。よかったよ!」と声をかけてくれたり、一緒に手拍子をしてくれるのを見ると、とても嬉しくなります。

コロナ禍であるけど、和太鼓を通して地域のひとと人の繋がりを作るお手伝いが少しでもできたらいいなと思います。

たくさんのご縁に感謝して、自分が楽しむことは忘れずにもう少し続けて行きたいと思えます。もつともつと地域に愛される和太鼓チームになるように。



年二回発行 昭和四十八年十月一日創刊

令和五年三月一日発行

### 三鷹市：大鷲神社

おおとり神社と読みます。三鷹市井口1丁目1番地の分岐する道路に挟まれた小さな神社、社名碑がなければただの祠かと思いがしそうな社殿で、その縁起も不詳とのこと。ところがどっこい、コロナ禍前までは毎年11月にこの地域最古の酉の市がたち近隣の人たちで賑わっていたといひます。さらに社名碑の揮毫は武者小路実篤、三鷹に住んでいたことのある彼に地元の方たちが依頼したそうです。



周辺の神社に続々と初詣客が訪れていた年明けの深夜、誰もいない社前で手を合わせると神様を独り占めした気分になりました。

### 武蔵野市：武蔵野八幡宮

桓武天皇の御代延暦八年坂上田村麿が宇左八幡大社の御分霊を祀ったと伝えられ、四代将軍家綱の頃江戸小石川水道橋外吉祥寺火事の後、周辺町民に移住を命じ、寛文初年吉祥寺村開村により村民の氏神様として尊崇されてまいりました。



武蔵野八幡宮には、吉祥寺秋まつりのシンボルである宮神輿が展示、保存されています。

今年は、3年ぶりに渡御が出来ました。

## 神社

### 国分寺市：日吉山王内藤神社

所在地 国分寺市日吉町4丁目11の14



享保19(1734)年9月19日に近江国日吉大社(御祭神大山咋命)を勧請し、当時の内藤新田(承応2年に玉川上水が引かれ、享保の時代には周辺に82もの新田が開発された。その一つが内藤新田である。)の鎮守として創建された。今年、令和5(2023)年9月に鎮座289年目を迎える。

### 小金井市：小金井神社

創建は元久2年(1205年)武蔵野開拓にあたり、御祭神菅原道真公の徳を敬い社殿を造り、天満宮としたと伝えられている。天正11年(1583年)賀茂下出雲人道勝重という人が、小金井の地に住み大いに開拓に努力し、里人らと共に資金を集め社殿を修復した。



拜殿は明治27年に建てられたものであったが、令和元年より、御代替奉祝記念事業拜殿改築及び境内整備が行われ、令和2年12月新拜殿が竣工した。

### 新任保護司

左記の方が委嘱されました。今後のご活躍を期待いたします。



(三鷹分区)  
富沢 武人氏  
令和4年12月22日  
発令



(小金井分区)  
小野 留美子氏  
令和4年12月22日  
発令



(武蔵野分区)  
松尾 竜哉氏  
令和4年12月22日  
発令

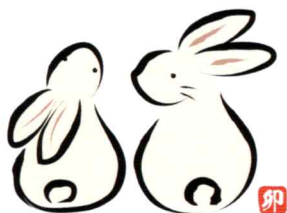


(三鷹分区)  
押野 功悦氏  
令和4年9月1日  
発令

### 編集後記

かつてのスペイン風邪は3年で収束に向かったが、コロナの猛威はまだ収まることなく、第8波の最中にこの身を置いて、イベントの自粛や中止もまだまだ多く、記事が少なくなってしまう現実に抗うすべもない。昨年始まった戦争も終わりが見えず、世界にその波及が深まりつつもある。今年「癸兔」で株の世界ではめでたく跳ねるはずだが果たしてどうだろう。前回の「癸卯」ではビットコズが地球規模でブレイクした。コロナの特効薬が生まれ、戦争も終わり自由に跳ね回れる平和な世界になってくれることを願うばかりです。

(広報部員一同)



発行者 編集人

北多摩東地区保護司会  
吉野武 電話〇九〇(二九〇〇)九六二五